（別紙８） ［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評価結果概要表

作成日　平成１９年１２月１４日

【評価実施概要】

事業所番号	０１７２９０２２８０
法人名	有限会社　環境設備
事業所名	グループホーム　　プランタンⅢ
所在地	旭川市９条通１６丁目２４ （電　話）0166-25-0010

評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目３　北1条ビル３階		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年2月8日

【情報提供票より】（　１９年１１月１０日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成１７年　７　月　１５　日		
ユニット数	２ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	20 人	常勤７人，　非常勤１３人，　常勤換算７．５４人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	１階建ての　　１階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	10,000　円	その他の経費(月額)	円
敷　　金	有（　　０　円）		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　０　円）	有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食　　円	昼食	円
	夕食　　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円		

（４）利用者の概要（　１２月　１日現在　）

利用者人数	18 名	男性　2 名	女性　16 名
要介護１	2名	要介護２	4名
要介護３	6名	要介護４	6名
要介護５	0	要支援２	0
年齢　平均	82.8 歳	最低　64 歳	最高　94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	旭川ペインクリニック・東郷整形外科医院・林歯科医院・旭川ファースト歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

１７年７月に開設し２年が経過したグループホームである。玄関を通り事務室から繋がるダイニング兼リビングには、全利用者が集まり豊かな表情で笑い楽しげに過ごしている。職員が休養を促さなければ居室には戻らないほどに大好きな居場所である。利用者は職員の親身で行き届いた世話に感謝しつつも、垣根もなく一人ひとりが主人公になりきり、職員とともに良好な人間関係を保つ家庭的雰囲気の中で共同生活を送っている。特に、施設長による全利用者を対象にした施術サービスは好評で身体機能の回復を体感している。ホームの理念｢自由、やさしさ、思いやり｣は、「親ならどうする」の問い掛けに意志の統一を図り具現化、共有化をもとにチームケアの実践を進めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）

７項目の改善課題は、施設長とケアマネ-ジャーが中心に全職員による話し合い取り組みを通して多くは改善したが、「地域への啓発活動」「地域住民との交流」が残された課題である。地域密着型サービスとしての理念の具現化を視点に具体的な展開を期待する。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は、職員の負担軽減を考え施設長とケアマネージャーにより叩き台を作り、職員に提示し意見反映を踏まえて作成した。職員は、項目｢取り組みの事実｣をもとにケアサービスのマンネリ化を戒め、サービスの質の向上につなげている。次回より全職員で取り組む意向である。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

初開催は１９年４月で以後３回開催している。協力医療機関の事務長、近隣町内会長、家族代表、事業所代表により、事業所の現状、イベントの状況、課題などについて報告し、それぞれの立場から意見や助言を受けている。運営推進会議で受けた意見は全職員に報告し、運営に反映するとともにサービスの質向上に活かしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族の来訪は多く、その都度、利用者の心身の状況を隠さずありのままに話し、家族からの話を聞いている。事業所と家族は利用者を中心に事実をありのままに話し合う関係ができている。家族の生の意見を歓迎し運営に反映している。契約書には、事業所の苦情相談と公的機関の通報窓口を掲げ、対応や取り扱いについて明らかにしている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

事業所の周辺はマンションや倉庫、空き地が多く民家が少なく、町内会長は不在が多く十分な地域活動が行なわれていない特殊性がある。また、近くには反社会的な人達が居住していることも重なり、町内会には加入せず静観の状態である。そのような中で近隣中学校とは相互訪問を行ない豊かな交流が芽ばえている。利用者の地域生活を支える視点から、地域密着型サービスの理念策定の中で再考されることが望まれる。

2. 評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	１７年時の開業時に掲げた理念をもとに、利用者に視点をあて具現化、実践化の取り組みが行なわれている。施設長は地域密着型サービスとしての事業所独自の理念について、全職員によるミーティングで話し合い策定を進めたい考えでる。	○	現理念に加えて地域密着型サービスとしての事業所の役割を検討し、利用者の地域生活を支える理念・方針・目標を明確にしたサービスの提供が行われるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現理念「自由、やさしさ、思いやり」をもとに施設長の「家族ならどうする」の問い掛けを通して、振り返り、すり合わせを行なわない意識の統一を図りチームケアの実践に取り組んでいる。理念共有の体制は確立している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺は、マンションや倉庫・空地が多く町内会長は不在がちで十分な活動が行なわれていない地域で、近くには反社会的な人達が居住していることとも重なり、町内会には加入せず静観の状態である。そのような中で近隣中学校とは相互訪問を行ない豊かな交流が芽ばえている。	○	特殊な事情が重なる地域の中で、昔ながらに住み続ける良識ある人達との接点を模索しているが、利用者の地域生活を支える視点から、地域密着型サービスの理念策定の中で再考されることを期待する。
4					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の負担軽減を考え、施設長とケアマネージャーにより叩き台を作り職員に提示し意見反映を踏まえて作成した。職員は記載項目をもとにケアサービスのマンネリ化を戒めサービスの質向上につなげている。外部評価の結果は施設長を中心に全職員で改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初開催は19年4月で以後3回開催している。協力医院の事務長、近隣町内会長、家族と施設代表者により、事業所の現状やイベントの状況、課題などを報告し委員の立場から意見や助言を受けている。意見は職員に報告しサービスの質向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する集団指導を初め講習会などの案内を受け参加しているが、事業所の現状に即した市担当者との協力体制はできていない。	○	市は市民福祉の推進者であり介護保険の保険者である。事業所の現状に即した日常的な連携を図る取り組みを期待し、さらなる働き掛けを期待する。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は多く、都度利用者の心身の状況はありのままの様子を話し家族からの話を聞いている。健康状態に変化が生じた時は報告・相談を行ない、金銭管理や一般的な報告事項については月初めの文書で行なっている。	○	利用者の生活の様子を中心にした「ホーム便り」を計画中である。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」は置いていないが、事業所と家族は利用者を中心にありのままを話し合う関係ができており、家族の生の意見は運営に反映している。なお、契約書には苦情の相談、通報窓口を掲げ、対応や取り扱いについて明らかにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	主任は職員と日常的な対話の中で親身な相談相手になり、離職を最小限に抑えている。やむなき離職の場合はケアの持続性と利用者へのダメージ緩和の取り組みを全職員で対応している。家族へは報告事項として来訪時や文書でお知らせしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プランタングループの月一回開催の施設長会議の内容は、施設長から主任を通して職員に報告され、内部研修として資質向上に役立っている。職員は研修意欲が旺盛で自発的に研修会に出席し、報告会を開き共有体制を確保しているが、事業所としての研修に係わる年次計画や予算の確保がなされていない。	○	ケアサービスの質的向上は全職員の資質向上に委ねられその要は研修である。職員の段階に応じた研修内容を内外の研修会を通して確保するよう運営面における研修体制の確立が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	プランタングループはオーナー違いのグループホーム集合体であり、その中で職員の行き来を通した相互の研修や見学を行なっている。管理者は現状に満足せず、さらにグループ外のホームへと拡大の意欲を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談があった時点で、本人、家族に見学をして頂き、雰囲気を味わい納得のうえで契約に至っている。入居後に不穏が生じた場合は、ミーティングを開き原因を追究し気付きをもとに全職員で対応している。なお、利用予定者が入院中の場合は家族に見学をお願いしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に散歩、作業、レクレーションなどを行ない、同じ目線で物事をとらえ喜怒哀楽を共有し支え合いの関係を築いている。特に、利用者の表情を見極め場面に応じて対応している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向、希望は職員と1対1になった時に多く聞かれ、職員による場面作りを通して把握できたことは管理者に報告しミーティングで共有している。なお、施設長による施術（マッサージ）を通したスキンシップ時に思い、意向、悩みの把握がなされている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に、日常的に行なわれる意見交換、ケアカンファレンスにおいて職員の気付きやアイディアなどをまとめ、介護計画に反映されている。また、家族の来訪時には積極的に意見や要望を聞き、本人や家族が納得できる介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には介護支援専門員が中心に介護認定更新時に見直しを行なっている。利用者の状態変化や必要に応じて本人、家族と話し合い、医療機関とも相談しながら現状に即した見直し計画を作成している。しかし、介護計画書に沿った日常の記録が職員に徹底されておらず、記録から評価、見直し作成の過程が滞っている。	○	介護計画書を常に職員の身近な場所に置き、利用者にとっての目標を再認識しながら日々記録ができるように研修を含めて再検討することが望まれる。今後もケアが適切に行なわれ、計画書の見直し作成が順調に行なわれるよう期待する。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設長は柔道整復師であり、全利用者を対象に身体状況に応じて施術支援を行なっている。また、主治医への受診時はタクシー料金利用者負担で職員による送迎支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による定期的な受診は病院による送迎付きで行なっている。利用者の半数は本人、家族の意向により主治医の治療を受けており職員が同行している。利用者の心身の状態については医師同士が情報交換を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連帯体制の指定を受け、市担当者の指導により「終末期の看取りについて（事前確認）」が用意されているが、利用者の状況変化に応じた家族との段階的な話し合いを行なう必要から、「重度化・終末期の対応指針」を現に作成中である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の心を傷付けたり気にする言葉掛けを始め、トイレ、浴室への出入り時の対応や居室への無断入室など、自尊心やプライバシーを損ねないように対応している。記録簿は一括して事務所で管理している。個人情報使用については同意書を交わし遵守している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには｢おおよその一日の流れ｣があり職員は流れに即して業務を行なっているが、利用者の生活とは切り離しお願いすることもなく、気分に応じて自己ペースで生活ができるよう柔軟に対応し支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じ、調理の下準備、後片付け、テーブル拭きなど携り、２人の栄養士が所属するプランタングループの食事部会が作成した献立をもとに調理し、職員は利用者とともに食卓に着き会話を楽しみ介助し食事をしている。なお、献立はホームの意向で変更可能になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	２つのユニットともに介助入浴が週３日に決められているが、それ以外は利用者の希望する曜日、時間に見守り支援を受け入浴している。必要に応じてシャワー浴や清拭の対応も行なっている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量や希望を踏まえ声掛けや場面作りを通して、掃除や洗濯物干し、食事の一連作業など自分の役割として行なっている。利用者は大好きなリビングでカラオケや制作活動を楽しんでいる。施設長の施術も楽しみのひとつになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候と利用者の希望を優先し、降雪期以外は全利用者を対象に散歩、買物など週２～３回以上の外出支援を行なっている。日帰り温泉、動物園、雪祭りなど、ホーム行事としての外出支援も行なっている。	○	利用者の希望に応じて外出支援に努めているが、ホームは安全確保の視点から施錠し利用者は自分の意志による外出が制限されている。日常的な外出支援体制の確立が望まれる。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長は施錠のない自由な暮らしの大切さを理解しているが、利用者の生命を守る使命感を担っている。過去の離設事故の経験を踏まえ、やむなく施錠をしている。	○	施設長は、「利用者の生命を守る使命感」と「施錠のない自由な暮らしの保障」に葛藤しているが、運営者、職員ともに英知を結集し、生命を守り自由な暮らしを支える方策を検討頂きたい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 　火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営規程には非常災害時対策を掲げているが、具体的な対策はなく避難マニュアルのみである。施設長は避難訓練を年２回くらい実施したい意向を持っている。	○	ホームには利用者の生命を守る使命感があり、地域密着型サービスの枠組みを活かし、消防署、警察署、地域住民が一体となった協力体制を確保した実践的な訓練が望まれる。また、災害に備えた飲食物や災害グッツの確保も望まれる。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が所属する食事部会の献立により美味しい食事の提供に努めている。水分摂取は１０００CCを基準に個別化の対応を行なっている。特に注意を必要とする利用者の水分摂取量と全利用者の食事摂取量を記録し共有が行なわれている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニング兼リビングから共有空間と居室が使いやすく配置され、不快な音、光はなく季節に合った装飾品や額、置き物など、生活感と季節感を採りいれ明るく居心地よい共有空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、整理ダンスを始め使い慣れた家具やポット、食器、趣味の品などを持ち込み、壁には思い出の写真や色紙を飾り、利用者独自の空間になっている。		

※ ［網掛け］は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。